



表彰状を受ける加藤優佳さん  
16日午後、静岡市葵区

## 徳川家康公作文コンクール

# 入賞者21人を表彰

静岡

徳川記念財団は16日、徳川家康公顕彰作文コンクール(徳川みらい学会共催、静岡新聞社・静岡放送後援)の表彰式を静岡市葵区で開き、最高賞の徳川

賞に輝いた加藤優佳さん(浜松市立開成中1年)ら入賞者21人に表彰状を贈った。上位入賞者4人が作文を朗読した。加藤さんの作文タイトルは「三方原合戦から分かつたこと」。家康が人生で唯一大敗したといわれる三方原合戦を調べた加藤さんは、家康と家臣にまつわる逸話に触れ「互いが互いを

命を懸けて思っていたことが分かる。この深い絆の下、一丸となれたからこそ苦しい戦国時代を乗り切れた」と考察した。失敗の経験を開ケ原の合戦での戦術に生かした賢さなどを挙げ、「時代を超えて家康の言動が教訓、憧れとして受け入れられている」と締めくくった。

表彰式後は、同財団の徳川家広副理事長による講話もあった。

5回目の同コンクールには、県内の小中学校から前回より130点多い477点の応募があった。前回創設した学校賞には、2年連続で静岡市立清水有度第一小が選ばれた。